

めでたく満100歳
こくぶん すみこ
國分 澄子さん(長下)



みうら
三浦 ヒテ子さん(小浜)



すげの うめお
菅野 梅雄さん(西勝田)



この世に生を受けて一世紀。2月7日に國分澄子さんと三浦ヒテ子さん、10日に菅野梅雄さんがめでたく満100歳を迎えられ、二本松市からは賀寿状、福島県からは賀寿状と木杯が贈られました。國分さんの長寿の秘訣は「三食しっかり食べること」、三浦さんは「平々凡々として暮らすこと」、菅野さんは「よく食べてよく寝ること」とのことです。皆さんのますますのご長寿をお祈りいたします。

地域の農業の担い手に
任命書交付



2月6日、新規の認定農業者及び認定新規就農者に対し農業経営改善計画認定書と青年等就農計画認定書の交付を行いました。今後、認定された計画に沿って営農を行い、地域農業の担い手として活躍することが期待されます。



高校生による模擬投票
未来の県知事選



2月19日、安達高校で2年生を対象に、選挙を学ぶ模擬投票が催され、投票だけでなく選挙事務(開票や投票用紙の交付など)にも携わり、選挙の流れについて体験をしました。



にほんまつ伝統芸能祭
地域の“宝”を堪能



2月23日、安達文化ホールで第26回にほんまつ伝統芸能祭が開催されました。市内に伝わる太々神楽や獅子舞等のほか、特別出演として南相馬市の無形民俗文化財「相馬流れ山踊り」が披露され、訪れた方々は、長く伝承されてきた地域の宝である伝統芸能を堪能しました。



産業のさらなる活性化へ
にほんまつ企業交流会



2月28日、二本松御苑で市内企業の発展を目的とした交流会が開催されました。東北江南株式会社による企業プレゼンテーションが行われたほか、新幹線清掃会社を「おもてなし集団」へ変革させた矢部輝夫氏をお迎えし、働きがい改革をテーマに講演をいただきました。



にほんまつを知り、将来を考える 郷土学習発表会



2月21日、二本松第一中学校1年生が総合的な学習の時間に取り組んできた「郷土学習」の発表会が開催されました。ふるさと二本松市への理解を深めるため、独自の視点で調査や取材を行ってきた生徒たちは、その学習の成果を「よりよい二本松市を創造するための企画」として提言しました。発表会には講師を務めた方々も招かれ、企画に対しての講評をいただきながら、これまでの学習を振り返りました。



岩代地域のシンボルツリー

合戦場のしだれ桜 樹勢回復プロジェクト



市指定文化財である「合戦場のしだれ桜」では、クラウドファンディング等による皆さんからの寄付をもとに、樹勢回復プロジェクトに取り組んでいます。

1月には、幹を保護するためのコモ(藁製の保護剤)を巻く作業が行われ、2月には、桜の根の発根促進のための土壌改良作業が行われました。今後も樹木医の指導のもと、樹勢の回復を目指していきます。



コモ巻き作業



土壌改良作業

青年海外協力隊員帰国報告会

世界を知ろう。世界とつながろう。



3月1日、二本松市市民交流センターで「地球市民の集い」が開催されました。海外協力隊員としてエチオピアやルワンダに派遣されていた沖和美さんおきかずみによる報告が行われたほか、二本松について理解を深めるクイズも開催されました。交流会では、JICAジャイカ(国際協力機構)訓練生や市民ら約60人が参加し、国際交流についての認識を広げました。



「ないものねだり」ではなく「あるものさがし」を ふくしまジュニアチャレンジ 活動部門グランプリ受賞



小中学生の優れた発想や取り組みを称える「福島民報社第6回小中学生まちづくり大賞」が開催され、二本松北小学校4年生の4人組「四本松」の活動がグランプリに輝きました。4人は市の魅力を地元商店街で調査したり、観光資源である二本松少年隊の顕彰碑を清掃したりするなどして、「人口が減る地域を元気に」というテーマに取り組み、その活動が評価されました。



写真左から、くまもとれいじ、熊本嶺士さん、かんのひろと、菅野晃斗さん、さとう
ゆうたろう、こうたかこうせい、高鷹煌聖さん、祐太朗さん